

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Jpn J Infect Dis. 64(2011)260-261	A型肝炎ウイルス遺伝子の疫学的調査及び分析に関する報告。2010年4月-5月に長野県において発生した3例のA型肝炎患者について、3例中2例(患者A及びC)は海外渡航歴を認め、患者Aは韓国及び台湾に、患者Cはフィリピンに渡航していた。患者Bのみ発病の約1カ月前に生の二枚貝を食していた。3例の糞便を用いたRT-PCR検査により、全てHAV遺伝子陽性となった。系統発生解析を行うと、患者A及びB由来株は遺伝学的に近縁で遺伝子型ⅢAに分類された。近年韓国で流行しているHAV株の多くは遺伝子型ⅢAに属したとの報告がされていることから、患者Aは韓国国内で感染した可能性が否定出来ない。また患者BはHAVに汚染された生の二枚貝を食したことが感染原因となったものと推定された。他方、患者C由来株は遺伝子型ⅠAに分類され、ドイツにおいてフィリピン渡航者から検出された株と同じクラスターに属し、フィリピンの河川水から検出された株とも近縁であったため、患者Cはフィリピン国内でHAVに感染したものと考えられた。
2	A型肝炎	第59回日本輸血・細胞治療学会総会; 2011.4.14-16; O-037	遡及調査により判明した輸血後HAV感染の報告。供血者は20歳代男性で、献血後に発熱があり急性A型肝炎と診断された。献血血液からは輸血用血液製剤(Ir-RCC-LR)と原料血漿が製造されており、Ir-RCC-LRは既に使用されていた。供血者保管検体を検査したところHAV-RNA陽性が確認され、医療機関に情報提供を行った。受血者は70歳代男性、腎疾患等による入院患者であった。受血者の血液検査は、輸血前HAV-RNA陰性、HAV-IgM抗体陰性、HAV-IgG抗体陽性であったが、輸血後にHAV-RNAが陽転化していた。供血者及び受血者のウイルス塩基配列は調査した2領域において全て一致した。受血者は、経過観察中に肝機能障害を認めず、3ヵ月後にHAV-RNA陰性が確認された。
3	B型肝炎	CDDR Weekly Infectious Diseases News Brief. Feb 25,2011	オカルトB型肝炎(OHB)供血者によるHBVの伝播性に関する報告。ヒト肝細胞を移植したキメラマウス4匹に対し、2名のOHB供血者の血清サンプルを接種し、血清および肝臓HBV-DNAレベルを測定したところ、1匹で接種から5週間後および7週間後に血清HBV-DNAが検出された。また、OHB供血者10名(うち9名はHBs抗体陽性)から遡って特定した受血者49名についてHBV感染の検査を行ったところ、陽性であったのは4名であった。そのうち3名では供血者とのHBVゲノム相同性から輸血による伝播が否定され、1名が輸血によるHBV感染と判定された。これらの結果より、OHB供血者由来の血液で感染する可能性があることが示唆された。しかし、ヒトにおけるHBVの伝播リスクは、特にHBs抗体陽性のOHB供血者からの血液製剤では、低かった。
4	B型肝炎	MMWR. 60(2011)182	介護施設における医療機器の共有によるB型肝炎感染の報告。米国ノースカロライナ州の介護施設において、入居者4例が急性B型肝炎に罹患したことを受け、入居者全員の検査が行われた。その結果、87例中8例がB型肝炎に感染しており、その後6例が死亡した。この施設では血糖モニタリング機器に用いるフィンガースティック機器が入居者間で共有されており、血糖メーターの洗浄・消毒が行われていなかった。感染した8例とも血糖モニタリングを受けており、感染原因は機器の共有であると考えられた。
5	B型肝炎	Transfusion. 51(2011)1477-1485	抗HBc抗体検査で反応を示した供血者の診断評価と再登録のためのアルゴリズムに関する報告。現行の抗HBc抗体検査は比較的特異度が低いことから、本来は供血可能である供血者を逃してしまう可能性があるため、その中から真の陽性を鑑別し、現行の抗HBc抗体検査で偽陽性であった供血者をリエントリーするためのアルゴリズムについて調査した。化学発光微粒子免疫測定法(CMIA)による抗HBc抗体検査に陽性を示した検体について、微粒子免疫測定法による抗HBc抗体、CMIAによる抗HBs抗体とHBs抗原、及び個別NATによるHBV DNA検査を行った。結果の分類は、抗HBc抗体に真の陽性、不確定、偽陽性とした。検査の結果が不確定または偽陽性であった供血者は、抗HBc抗体の追跡検査で陰性でありHBV感染について更なる証拠がない場合にリエントリーが認められるとした。その結果、148,000検体の0.37%が、CMIAにより抗HBc抗体陽性となった。これらのうち真の陽性26%、不確定14%、偽陽性60%に分類できた。不確定と偽陽性の411検体中52%についてリエントリーが認められた。一方で、抗HBc抗体陽性及びHBs抗原とHBV DNA陰性であった供血者1人において、追加検査中にHBV DNA陽性が確認された。このアルゴリズムを適用した場合、多くの不確定又は偽陽性供血者は供血ができるようになるが、1名の供血者では抗HBc抗体検査のみでしか感染を確認できなかった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
6	C型肝炎	MMWR. 60(2011)172-174	臓器移植時の導血管の使用を介した肝炎ウイルス感染に関する報告。生体ドナーからの臓器移植の際に、臓器とレシピエントの血管を継ぐ導血管として別の死体ドナーの血管を用いる場合があるが、2009年5月、米国でこの導血管を介したHCV感染のニアミス事例が発生した。これを受け、2006年5月から2008年5月に行われた移植例について調査された結果、肝炎ウイルス陽性ドナーの導血管が用いられた移植がピッツバーグ大学医療センターにおいて2例確認された。レシピエントは2例とも肝炎へ感染していなかったが、今後は肝炎ウイルス陽性ドナーからの血管を保存しないよう提言された。
7	C型肝炎	ProMED-mail 20110613.1805	インドにおけるC型肝炎に関する新聞記事。インドのルディアーナ市において、C型肝炎が急速に広まっていることが明らかとなった。献血血液のC型肝炎陽性率は全国平均0.44%に対し、ルディアーナ市は、0.81～2.13%である。市内の血液バンクに対して、C型肝炎に関する知識を啓蒙するよう、また、感染血液は手順に従って安全に廃棄するように指示がなされた。
8	B型肝炎 C型肝炎	Intervirology. 54(2011)185-195	日本におけるC型肝炎ウイルス(HCV)、B型肝炎ウイルス(HBV)の診断未確定キャリア総数に関する報告。地域及び年齢別のHCVならびにHBV有病率を、20-39歳については初回供血者、40-74歳については定期健康診断の受診者を対象に調査された。5-19歳の若者の有病率は一つの県において決定され、75歳以上の高齢者のHCV有病率は指数モデルにて推定された。その結果、2005年の127,285,653人の全人口のうち、0.63%がHCVキャリアであると算出され、0.71%がHBVキャリアであると算出された。C型肝炎の年齢による特徴として、年齢とともに有病率の変動幅が大きかった。地域別の特徴として、有病率の変動幅が大きく異なり、西日本で増幅が大きい傾向があった。一方B型肝炎では、全地域において55～59歳で最も有病率が高く、北海道では3.1%に上った。どの地域においても2000年と2005年を比較すると、HCV及びHBVキャリアの割合は減少している。
9	E型肝炎	ProMED-mail 20110412.1127	フランスにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)感染の報告。2011年1-3月、フランスのマルセイユの病院において、11例がPCRと血清学的検査によりHEV感染と診断された。1例が肝炎を発症し、2か月後に死亡した。発症3ヶ月前の期間に海外へ渡航した患者はなかった。豚レバーソーセージの食歴が、聴取を行った9例のうち6例で確認された。抗HEV IgMが、未調理の豚レバーソーセージを食べた感染症例の妻2人からも検出された。女性1人は血清ALTが165UI/lだったが、臨床症状はなかった。
10	E型肝炎	Vox Sanguinis. (2011)1-2	血漿分画プールにおけるE型肝炎ウイルス(HEV)の地理的分布に関する報告。欧州、北米、中東及びアジアから75の血漿分画プールを入手し、HEV RNAと抗HEV IgGの検出を行った。その結果、約10%の血漿分画プールがHEV RNA陽性で、陽性プールの地理的分布は欧州、北米、アジアと広範囲にわたっていたが、いずれも1000copies/ml以下であった。同定された株の系統発生解析により、genotype4がアジアのプールに限定されていたのに対し、genotype3は欧州と北米のプールで確認された。また、抗HEV IgGの濃度はアジアのプールで最も高かった。
11	HIV	21st Regional Congress of the International society of Blood Transfusion; June18-22,2011	ドイツにおける、新しいジェノタイプのHIV-1に関する報告。2010年、ドイツにおいて、NATスクリーニング陰性であった2例の供血血液がHIV-1抗体検査にて陽性となった。この検体に対してNATが陰性となった原因を究明し、2例に遺伝的関連性があるかどうかを特定することを目的としてウイルスRNAの配列解析を行った。その結果、検出のすり抜けは、PCRのプライマー結合領域又はプローブ結合領域における同一の変異に由来した。公表されているどのデータベースにも類似の配列はなかった。両方の検体はHIV-1 M サブタイプBに分類されたが、ロングターミナルリピート(LTR)のシーケンスに変異が認められた。2人の供血者から分離されたHIV-1は今まで知られていなかった亜集団に属することが示された。
12	HIV	ProMED-mail 20110318.0868	臓器移植によるHIV感染の報告。米国において、生体腎移植を受けた患者1名が、移植の1年後の受診の際にHIV感染と診断された。1980年代にHIVスクリーニングを開始して以来、米国内で初めての感染例となった。ドナーも共にHIV感染と診断されており、HIV陰性と診断されてから手術までの11週間に感染したと疑われている。CDCは臓器提供者が手術の1週間前にもHIV再検査を受けることを推奨した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
13	インフルエンザ	CDC/MMWR Early Release. 2 Sep 2011	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染の報告。2011年8月、米国においてH3N2ウイルスが原因の熱性呼吸器疾患症例2例が報告された。1例目はインディアナ州の5歳未満の男児で、ブタとの接触歴はないがブタに直接接触したケアワーカーが発症2日前に男児の世話をしていた。もう1例はペンシルバニア州の5歳未満の女児で、ブタ等の動物に直接接触していた。2例とも回復している。また、2例の間に疫学的な関連性は確認されていない。本ウイルスは2009年以降に米国にて確認されたH3N2 孤発例としての感染8例から検出されたウイルスと類似しているが、2009年のインフルエンザA(H1N1)ウイルスに由来する遺伝子セグメントが確認され、本ウイルスが再集合体であることが示唆された。
14	インフルエンザ	CDC/MMWR. 60(06)175-181	2010年10月3日から2011年2月5日までの米国におけるインフルエンザ発生動向の報告。発生動向は10月から12月まで低く、12月中旬から1～2月にかけて高くなった。インフルエンザB、2009インフルエンザA(H1N1)、インフルエンザA(H3N2)が検出され、流行したウイルスは2010-11のワクチンに含まれる株と抗原として類似性があった。新規のインフルエンザAウイルスとしては、2011年1月25日、米国ペンシルバニア州においてシーズン4例目となるブタインフルエンザA(H3N2)感染の症例が確認された。患者は女児で、2010年9月6日の発症に先立ちブタと接触していたことが報告されている。女児は入院を必要とせず完治した。
15	インフルエンザ	CDC/MMWR. 60(21)705-712	2010-11シーズンの米国におけるインフルエンザ活動性の報告。新規のインフルエンザAウイルスとしてはブタインフルエンザウイルスA(H3N2)感染症例が5例報告された。2例は入院したが、5例全てが回復した。このうち2例は親子の症例であり、父親は発症前にブタと接触していたが、子にはブタとの直接接触はなく父親との接触により感染した可能性が高かった。
16	インフルエンザ	CDC/Seasonal Influenza Flue View. Feb 24, 2011	米国におけるブタ由来インフルエンザ (swine origin influenza virus: SOIV) 感染の報告。2011年1月25日時点で、米国では2005年以降のSOIVのヒト感染例が20例報告されている。うち12例は3種再集合体(tr)H1N1ウイルス、7例はtrH3N2ウイルス、1例はtrH1N2ウイルスであった。全症例が症状を発症後、回復した。13例が19歳より若年であり、7例が成人であった。16例においてブタとの接触が特定された。これらの症例の調査の結果、ヒト-ヒト間の伝播は確認されていないが、生きているブタに接触がなく、感染した症例とのみ接触していたという症例がある。
17	インフルエンザ	CDC/Seasonal Influenza Flue View. Feb 4, 2011	2011年1月第4週(23-29日)のインフルエンザサーベイランス報告。新規インフルエンザAウイルスとしては米国ペンシルバニア保健局により、ブタ由来インフルエンザA(H3N2)ウイルスのヒト感染例1例が報告された。患者は2010年9月6日の症状発現前にブタと接触していた。初期検査では季節性インフルエンザA(H3N2)と考えられていたが、後のRT-PCR検査によりブタ由来インフルエンザA(H3N2)と確認された。
18	インフルエンザ	http://www.cdc.gov/media/haveyouheard/stories/lab_testing.html	米国におけるブタインフルエンザウイルスA(H3)感染の報告。ペンシルバニア州において、H3ウイルス感染症例が3例に増加したことが2011年9月6日付で報告された。1例目は5歳未満の女児であったが、今回確認された2例も10歳未満の女児であった。3例全員が2011年8月13～20日の週にWashington Country Agricultural Fairへ参加しており、そこではブタが展示されていたことが確認された。
19	インフルエンザ	Infection, Genetics and Evolution. 11(2011)1174- 1177	中国におけるブタインフルエンザウイルスH6N6の同定に関する報告。南中国の4つの養豚場においてH6N6感染が発生したことを受け、このウイルス株を系統的に解析した。その結果、このウイルス株は国内のアヒル由来であると判明し、HA遺伝子は南中国で広まっているH6鳥インフルエンザウイルスのグループIIに属していた。また、HA遺伝子の配列解析から、開裂部位において塩基性アミノ酸が欠損しており、レセプター結合部位は祖先となるH6垂型の鳥インフルエンザウイルスと似ていたが、2つの遺伝子変異が認められた。また、11施設475例のブタのウイルス保有率を調査したところ、3.4%においてH6ブタインフルエンザ陽性であった。
20	インフルエンザ	MMWR. 60(2011)1213- 1215	アメリカにおけるインフルエンザウイルスの遺伝子再集合に関する報告。2011年8月、米国においてブタインフルエンザ(H3N2)感染症例が2例報告された。2症例の間に疫学的関連性は特定されていない。2症例のウイルスは過去に特定されたH3N2ウイルスと類似しているが、8つの遺伝子のうち1つ(M遺伝子)が2009年のインフルエンザA(H1N1)ウイルスに由来するものであった。このことから、2症例に感染したウイルスがブタインフルエンザA(H3N2)ウイルスとインフルエンザ(H1N1)ウイルスの再集合体であることが示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
21	インフルエンザ	PRNewswire/news-releases. Sep 5, 2011	米国における新規インフルエンザ感染の報告。ペンシルベニア州衛生農業局は2011/9/2、新型インフルエンザAウイルスに感染した小児3例が確認されたことを発表した。分離されたウイルスはブタ由来H3N2ウイルスであるがH1N1ウイルスの遺伝子成分を含んでいた。3例は共に州南西部で行われた農業フェアに参加していた。衛生農業局は住民に対して、ウイルス拡大に注意を払い動物に触れた際は手を洗うよう注意喚起を行っている。
22	インフルエンザ	Transfusion. 51(2011)1949-1956	日本における、輸血によるインフルエンザ(パンデミック[H1N1]2009)感染リスクに関する報告。日本赤十字社血液センターでは献血後情報としてパンデミック(H1N1)2009感染疑いのある献血者から得られた血液製剤の供給を中止した。輸血による感染リスクを調査するため、献血後7日以内にパンデミック(H1N1)2009と診断された579人の献血者から得られた計565の血漿製剤と413の赤血球製剤についてリアルタイムRT-PCRを実施したところ、どのサンプルからもウイルスRNAは検出されなかった。輸血によるパンデミック(H1N1)2009の感染リスクは極めて低いと考えられる。
23	鳥インフルエンザ	Journal of General Virology, 92(2011)51-59	ヘマグルチニン(HA)開裂部位に隣接するアミノ酸と鳥インフルエンザウイルス病原性との関連に関する報告。HA開裂部位に隣接するアミノ酸配列のインフルエンザウイルスの病原性への影響を検討するために、H5N1亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスの変異体を用いてニワトリへの病原性を調査した。野生型ウイルスを接種したニワトリは10例とも2日後に死亡したが、HA開裂部位を複数の塩基性アミノ酸から単独の塩基性アミノ酸に置換したウイルスでは軽度の呼吸器症状のみであった。また、HA346位のセリンをバリンへ置換したウイルスでは、野生型ウイルスに比較して症状の経過に遅れがみられ、開裂部位と346位セリンの両方を変異させたウイルスでは臨床症状を示したニワトリはいなかった。これらの結果より、鳥インフルエンザH5N1の病原性には、HAの開裂部位のアミノ酸配列と共に346位のセリンが重要な役割を持つことが示唆された。
24	エボラ出血熱	WHO/GAR/Disease Outbreak News. May 18,2011	ウガンダにおけるエボラ出血熱の報告。2011/5/13、ウガンダ保健省はLuwero地区の12歳女児がエボラ出血熱に感染したことをWHOへ報告した。患者は出血を伴う発熱を主訴として病院を受診したが、死亡した。ウガンダウイルス研究所により、エボラウイルス(スーダン種)による感染であることが確認された。
25	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110521.1535	ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。ロシア地方当局より、CCHFの発生状況の悪化が報告された。2つの経済地区で、合計3例の確定診断例が発生し、いずれもダニ刺咬により感染したと報告されている。
26	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110530.1653	インドにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。インドGujarat州保健局は、CCHFの患者と接触のあった42人について、発熱監視を行っていることを報告した。畜産当局も、家畜のサーベイランスを開始している。感染患者はMehsana地区の住民1人であり、現在、CCHF ウイルスの確認検査が行われている。
27	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110708.2066	カザフスタンにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。カザフスタンのOblastにおいて、新たに1例のCCHF患者が報告された。2011/6/25に、27歳の男性1例が感染症病院に入院となり、検査により確定診断された。現在の状態は中等症であり、改善しつつある。カザフスタン南部における2011年の2例目の患者であり、5月に発生した1例目はヒツジの毛刈り中に感染し死亡していた。
28	クリミア・コンゴ出血熱	ProMED-mail 20110805.2368	ロシアにおけるクリミア・コンゴ出血熱(CCHF)の報告。ロシア地域当局は、Stavropolにおいて19例のCCHF患者が発生したことを報告した。このうち8例は、畜産業に従事している際に感染し、他の11例は郊外での余暇の間に感染したと推測された。
29	狂犬病	ProMED-mail 20110729.2285	パキスタンにおける狂犬病の報告。パキスタン国内の狂犬病発生数は増加傾向にあり、イヌによる咬傷を主な原因として、年間5000例以上の死者が報告されている。インドより症例数は少ないが、20分ごとに1例の頻度で犠牲者が出ていると、獣医動物科学大学におけるセミナーで発表された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
30	チクングニヤウイルス感染	ABC News (Australian Broadcasting Corporation). 2011 May. 25	ニューカレドニアにおけるチクングニヤウイルス感染に関する報告。ニューカレドニアにおいてこれまでにチクングニヤ熱が26例報告され、太平洋地域で初めてのアウトブレイク報告となった。大半の症例は首都ヌメアに集中しており、新たな蔓延防止の対策として蚊の繁殖場所を減らす等がとられている。
31	デング熱	DNA; India. 2011 Jan. 7	インドにおけるデング熱の報告。デリー市当局は、デリーにおける2010年のデング熱症例は6259例であったと報告した。これは2009年の5.43倍であった。特に9月及び10月の症例はそれぞれ2360例及び2246例であった。例年の傾向と異なり、この年のデング熱の症例は雨季の始まりよりもずっと早くから報告されており、冬になってからも報告は続いた。
32	デング熱	Jpn J Infect Dis. 64(2011)169-170	成田空港検疫所におけるデングウイルス検査の評価に関する報告。2009年4月1日から2010年10月15日に計26,013,924人の旅客を検査し、入国前の3日間にデング熱流行国に滞在し、高熱や不快感などの症状を訴えた者について血液検体を採取した。デングウイルス感染診断のための3種類の検査 (IgG/IgM抗体検出、NS1タンパク検出、デングウイルスRNA増幅) を行った144検体のうち、少なくとも1つの陽性結果が得られたのは23検体であった。今回の調査において、NS1迅速検査は信頼性と迅速性の面で他の検査方法より検疫所での診断に適していることが示された。加えてNS1陽性症例の多くはウイルスゲノムも陽性であり、患者がウイルスキャリアであることを示唆している。一方、使用法が簡潔で最も幅広く使われているIgG/IgM迅速検査は感度が低かった。IgM捕捉ELISAはウイルスを持った患者の検出には適していなかったが、ウイルス血症期以降の検体を検出するには有用であることが示された。
33	デング熱	ProMED-mail 20110531.1664	各国におけるデング熱の状況報告。 ①スリランカ: 軍病院に入院している15人の兵士の感染が疑われている。 ②インド: カルナータカ州の移動労働者コロニーにおいて7人に感染の疑いが持たれている。 ③プエルトリコ: 2011年5月20日までに1332例のデング熱感染疑いが発生した。 ④ブラジル: サンパウロ州タンバウにおける2011年現在のデング熱確定症例は245例であり、2010年全体と比較しても7.66倍の症例数となっている。
34	デング熱	ProMED-mail 20110606.1725	各国におけるデング熱の状況報告。 [1] ベトナム: 2011年より現時点で、ドンナイ省では死亡3例を含む1100例以上のデング熱患者が報告されている。前年より70%の増加となった。 [2] ①フィジー: 保健省より、Macuata州において新たにデング熱患者が10例発生し計18例となったことが発表された。 ②ブラジル: 2011年5月30日時点、リオデジャネイロ市においてデング熱症例が50,361例となったことが地方保健当局より報告された。これは2010年の16.1倍である。 ③コロンビア: 2011年5ヶ月間に、シュクレ地方において計611例のデング熱患者が発生した。
35	デング熱	ProMED-mail 20110620.1888	各国におけるデング熱の状況報告。 [1] インド: マハーラシュトラ州ムンバイにおいて2011年1例目のデング熱死亡症例が報告された。46歳女性であった。 [2] オーストラリア: クイーンズランド州においてデング熱のアウトブレイクが発生し、69例がデング熱と診断された。 [3] ブラジル: サンパウロ州リベイランプレトにおいて、2011年6月16日付で2例のデング熱死亡症例が報告され、2011年では8例となった。 [4] ボリビア: 2011年6月14日、サンタクルス県において、新たなデング熱死亡例が3例報告され、2011年では21例となった。 [5] ペルー: 2011年6月14日、新たにデング熱による入院症例が3例報告された。
36	灰白髄炎	MMWR. 60(2011)846-850	世界各国におけるワクチン由来ポリオウイルス (VDPV) の報告。2009年7月から2011年3月の間で、circulating VDPV (cVDPV) による新規アウトブレイクがアフガニスタン、エチオピア及びインドにおいて発生した。また、以前に確認されていたナイジェリア、コンゴ民主協和共和国、及びソマリアにおける累積症例がそれぞれ355例、37例及び13例となったことが報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
37	灰白髄炎	ProMED-mail 20110827.2625	中国及び世界各国におけるポリオの報告。2011/7/3-27の間に、中国の新疆ウイグル自治区で小児4例がポリオと診断されたことが中国衛生部から発表された。生後4か月から2歳までの4例の患者らは、いずれもホータン地区の住民であった。WHOの遺伝子検査により、2009年にパキスタンで確認された野生株ウイルスと99%一致し、パキスタンからの輸入感染例であることが確認されている。また、2011年のこれまでに報告されている333例のポリオ患者のうち、全体の1/3がポリオ流行(endemic)国で発生しており、残る2/3(222例)は再発国又は輸入感染例であった。全症例数の50%以上が、チャドとコンゴ民主共和国の2カ国で発生した症例であった。
38	灰白髄炎	WHO/GAR/Disease Outbreak News Most recent news items 2011.9.1	中国における野生種ポリオウイルスI型(WPV1)感染の報告。中国衛生部はWHOに、2011/7/3-27の間に麻痺を発現した4か月から2歳の小児4例からWPV1が分離されたことを報告した。4例は新疆ウイグル自治区のホータン地区出身であった。分離されたウイルスの遺伝子配列から現在パキスタンで流行しているウイルスと遺伝学的に関連したウイルスであることが示唆された。中国で最後にWPV1症例が確認されたのは1999年で、インドからの輸入によるものであった。中国国内での最後のポリオ発生症例は1994年であった。
39	灰白髄炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/tmp-pmv/thn-csv/polio-eng.php	各国におけるポリオの報告。カナダ公衆衛生局は、旅行者への注意喚起としてポリオ発生国の状況を発表した。ポリオ流行(endemic)国であるインド、パキスタン、アフガニスタン及びナイジェリアにおいて、ポリオは継続して発生している。2011年には非ポリオ流行国である中国、コンゴ民主共和国、アンゴラ等において症例の報告があった。ポリオ発生国へ向かう際にはワクチン接種を行うように勧告された。
40	口蹄疫	OIE 2011 April 11	ブルガリアにおける口蹄疫:発生日 2011年1月4日、最初の確定日 2011年1月4日、報告日 2011年4月11日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年4月7日にブルガスで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ45頭、ヒツジ356頭、ブタ6頭、確定例ウシ11頭、ヒツジ5頭、ブタ0頭、死亡例0頭、屠殺例ウシ11頭、ヒツジ356頭、ブタ6頭であった。
41	口蹄疫	OIE 2011 April 29	韓国における口蹄疫:発生日 2010年11月26日、最初の確定日 2010年11月29日、報告日 2011年4月29日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年4月19日にキョンサンクトで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例2800頭、確定例21頭、死亡例0頭、屠殺例21頭であった。
42	口蹄疫	OIE 2011 April 7	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年4月7日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年3月29日に貴州で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ252頭、ヒツジ7頭、ブタ421頭、確定例ウシ87頭、ヒツジ0頭、ブタ4頭、死亡例ウシ12頭、ヒツジ0頭、ブタ2頭、屠殺例ウシ240頭、ヒツジ7頭、ブタ419頭であった。
43	口蹄疫	OIE 2011 July 21	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年7月21日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年7月13日に貴州で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ73頭、ヒツジ197頭、ブタ124頭、確定例ウシ46頭、ヒツジ9頭、ブタ78頭、死亡例0頭、屠殺例ウシ73例、ヒツジ124頭、ブタ197頭であった。
44	口蹄疫	OIE 2011 March 31	中国における口蹄疫:発生日 2010年2月22日、最初の確定日 2010年2月28日、報告日 2011年3月28日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年3月19日に新疆ウイグル自治区で口蹄疫のアウトブレイクが発生した。ブタについて、感染の疑い205頭、確定例は58頭、死亡25頭、屠殺180頭であった。
45	口蹄疫	ProMED-mail 20110323.0910	ロシアにおける口蹄疫:発生日 2011年3月13日、最初の確定日 2011年3月21日、報告日 2011年3月21日、原因 口蹄疫ウイルス O型。2011年3月13日にザバイカルで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。感染の疑い例ウシ1518頭、ヒツジ2865頭、ブタ73頭、確定例ウシ183頭、ヒツジ0頭、ブタ1頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
46	口蹄疫	ProMED-mail 20110626.1952	ベトナムにおける口蹄疫の報告。ベトナムの39州以上の地域で口蹄疫のアウトブレイクが発生し、15万頭以上のウシが感染したことが2011年6月24日の動物衛生局会議にて報告された。45000頭以上が死亡または処分され、この中には、バッファロー5000例以上、ウシ938例、ブタ37760例、ヤギ329例が含まれていた。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
47	パルボウイルス	J Clin Virol. 51(2011)115-120	急性パルボウイルスB19 (B19V) 感染患者における血清学的検査偽陰性に関する報告。急性B19V感染症は高レベルウイルス血症の特徴を持つが、カプシドタンパク質VP1及びVP2に対する抗体はB19V粒子と免疫複合体を形成するため、血清学的検査では偽陰性となる可能性がある。偽陰性頻度について調査するため、健常供血者とB19V感染症(疑い)患者の血漿または血清118検体の検査を行った。ウイルス血症を示した83検体中24検体においてVP1/VP2特異的IgGとIgMはELISAで検出できなかったが、B19V粒子との免疫複合体形成が認められた。83検体中7検体はIgM陽性/IgG陰性もしくはIgM陰性/IgG陽性であった。83検体中45検体はIgGとIgMの両方を検出できた。35検体はB19V DNAを含んでおらず、そのうち5検体は血清学的検査で陰性となったものだった。これらの結果より、急性B19V感染症の診断にはB19V DNAと抗体の組み合わせアッセイが必要であることが示唆された。
48	パルボウイルス	Transfusion. 51(2011)1346-1354	供血血液におけるリアルタイムPCRでのパルボウイルスB19検出に関する報告。2006年～2009年にオランダのサンクイン社で行われた620万件の供血血液スクリーニングの中で、B19 DNAスクリーニングに用いられる2つのリアルタイムPCR(市販及び自家)を評価した。その結果、少なくともどちらかのアッセイにてB19 DNA量が 10^6 IU/mL以上であった検体が396件で、そのうち2つのアッセイ間において有意差を示すものが15件(3.8%)存在した。配列解析により、2つのアッセイのプライマー及びプローブ結合領域において不一致が確認された。系統発生解析により、検査結果不一致だった15検体はB19ジェノタイプ1又はジェノタイプ2であった。今後は、B19遺伝子の複数の領域を対象とする多重化された新しいB19 PCRアッセイの使用が望まれる。
49	ヒトポリオーマウイルス感染	Blood. 117(2011)7099-7101	健常者血液検体におけるメルケル細胞ポリオーマウイルス(MCPyV) DNAの検出に関する報告。DNA型腫瘍ウイルスであるMCPyVは、メルケル細胞癌(MCC)及び慢性リンパ性白血病と関連があることが分かっている。健常者血液検体よりバフィーコートを調製し、MCPyV DNA Tag配列について検査したところ、60件中13件(22%)の保有率が示された。10検体からのMCPyV DNA Tag配列は、以前報告されたMCC検体からのMCPyV配列と高い相同性を示していた。このことから、MCPyVが健常者の血液細胞中に残存する可能性があることが示された。
50	ウイルス感染	CCDR Weekly Infectious Diseases News Brief. July 22, 2011	異種間で伝播する新規アデノウイルスに関する報告。カルフォルニア国立霊長類研究所(CNPRC)においてサル(titi monkey)にアウトブレイクを起こした新規アデノウイルス(TMAdV)について、集団発生時にサルと接触した研究者も急性呼吸器疾患を発症した。また、研究者の家族にも同様の症状が2例に認められ、血中TMAdVに対する抗体が陽性であることが確認された。研究者の家族は感染サルへの接触がないことから、このウイルスがヒト間でも感染を引き起こした可能性が示唆された。一方、ヒトからサルに感染した可能性も否定できないと報告されている。
51	ウイルス感染	Plos Pathogens 7(7); e1002155; 2011	異種間で伝播する新規アデノウイルスに関する報告。カルフォルニア国立霊長類研究所(CNPRC)において、サル(titi monkey)にアウトブレイクを起こした新規アデノウイルス(TMAdV)が特定された。建屋内のサル65例のうち23例が劇症の肺炎に進行する上気道症状と肝炎を発症し、そのうち19例が死亡又は安楽死とした。集団発生時にサルと接触した研究者も急性呼吸器疾患を発症し、回復期に血清中TMAdVが陽性であることが確認された。また、米国西部におけるランダムな成人供血者81例のスクリーニングにおいて2例にTMAdV特異的中和抗体が検出された。TMAdVの発見は、新規アデノウイルスが異種間アウトブレイクの潜在的原因として嚴重に監視される必要があることを示している。
52	ウイルス感染	Emerging Infectious Disease, 17(5)	ジカウイルス(蚊によって伝播されるフラビウイルス)の性感染に関する報告。セネガルのBandafassi村に滞在していた米国人2例が帰国後ジカウイルス感染を発症した。一方の患者について、その妻も夫の発症の4日後に同様の症状を発現し、血清学的に感染が確認された。妻はアフリカやアジアの渡航歴はなく、同居している4人の子供には感染しなかったことから、性交渉が原因のヒト-ヒト感染が疑われた。アルボウイルスの性感染は過去に報告されていなかった。
53	ウイルス感染	Emerging Infectious Diseases. 17(2011)941-943	フランスにおけるトスカナウイルス(TOSV)感染に関する報告。2007年、フランスにおいて729例の供血者血漿を用い、抗TOSV IgGおよびIgMの有無を調査した。TOSVヌクレオカプシドタンパクを用いた酵素免疫検査キットによる検査の結果、11.5%でTOSVに対するIgGが陽性、3.3%でIgM陽性で、0.7%でIgG及びIgM陽性であった。血清学的知見からフランス南東部においてTOSV土着化を認めた。また、今回の調査により地理および気候の状態(標高や気温、湿度など)が感染率に関連していることが示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
54	ウイルス感染	Emerging Infectious Diseases 16(2010) 2011-2012	ブラジルにおけるブタ悪性カタル熱 (MCF) の報告。ブラジルの2カ所の養豚場において、雌ブタの悪性カタル熱のアウトブレイクが発生した。死亡した雌ブタには重度の髄膜脳炎が認められ、脳中にはヒツジヘルペスウイルス-2 (OvHV-2) のDNAが検出された。これらの養豚場において血中OvHV-2 DNAが陽性であった雄ブタ3例において、精液検体中にOvHV-2 DNAが検出されたが、全ての感染雄ブタは無症候であった。この地域では以前にMCFによる被害はなく、ヒツジとの接触については不明である。
55	ウイルス感染	Emerging Infectious Diseases. 17(2011)1417-1420	米国における新種のアレナウイルス感染の報告。米国で急性中枢神経疾患や鑑別不能型熱性疾患の患者1,185例中41例 (3.5%) から抗ホワイトウォーターアロウイルス (WWAV) 抗体又は抗リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス (LCMV) 抗体が検出された。ペア血清サンプルの抗体価の分析結果から、ノースアメリカンタカリペセロコンプレックスウイルス (NATSV) が2例、LCMVが3例の疾患原因であると示唆された。この研究結果より、NATSVもLCMVと同様に米国内でヒトの疾患原因となることが明らかとなった。
56	ウイルス感染	Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 30(2011)799-805	中国におけるヒトボカウイルス (HBoV) 感染の報告。中国において急性胃腸炎の小児366例を対象に、糞便中に含まれるHBoVをPCRにより検出して系統発生的に解析を行った。その結果、44例 (12%) よりHBoVが検出され、HBoV1が9例、HBoV2が33例、HBoV3が2例であった。HBoV3検体はいずれもロタウイルスと共に検出された。ゲノム配列解析により、HBoV3はHBoV1とHBoV2、又はHBoV1とHBoV4の組換え体である可能性が示唆されている。HBoV3の感染例は中国において初めての報告であった。
57	ウイルス感染	Health Protection Agency, Emerging Infections Monthly Summaries, 9	コンゴ民主共和国におけるラッサ熱症例の報告。コンゴ民主共和国オリエンタル州においてラッサ熱による死亡症例が1例発生し、パリのパスツール研究所で確認された。コンゴにおける初めてのラッサ熱症例であるが、感染源については分かっていない。
58	ウイルス感染	OIE 2011 March 4	ベリーズにおける水疱性口内炎: 発生日 2011年2月21日、最初の確定日 2011年3月3日、報告日 2011年3月4日、原因 水疱性口内炎ウイルス。2011年2月21日にスタンクリーグで水疱性口内炎のアウトブレイクが発生した。ブタにおいて、感染の疑い例17頭、確定例7頭、死亡例0頭、屠殺例0頭であった。
59	ウイルス感染	The Hindu. May 23, 2011	インドにおけるキャサナル森林病 (KFD) の報告。2011年初めに、インドのShimigaにおいて11例のKFD感染が発生したことが報告された。17人に感染が疑われ、そのうち11検体が陽性であった。KFDはダニ媒介性ウイルス熱で、サルからダニを介してヒトに伝播されるが、2011年3月に森林内で複数のサルの死亡が確認されており、KFDの流行はそれに続いて発生した。感染が確定した11例は全例が治療により回復した。
60	ウイルス感染	厚生労働省 季節性インフルエンザワクチンの供給量について (第2報). 平成23年9月22日	日本における季節性インフルエンザワクチンの供給量に関する報告。2011年9月、厚生労働省は、季節性インフルエンザワクチンの一部に品質試験の結果トリレオウイルスの混入が確認されたことから、約236万本のワクチンが出荷不可となったことを発表した。今シーズンのインフルエンザワクチン供給予定量が約2700万本となった。
61	ウイルス感染	ProMED-mail 20110701.2003	米国におけるポワッサンウイルス脳炎の報告。2011年5月、ミネソタ州においてポワッサンウイルス脳炎が2例報告された。1例は60代女性であり、ミネソタ州で初めての死亡例となった。もう1例は60代男性で、回復している。2例とも屋外にてダニに噛まれていたことが分かった。
62	クロイツフェルト・ヤコブ病	EMA/CHMP/BWP/303353/2010, 23 June 2011	クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) と血漿/尿由来医薬品に関するCHMP意見書 (EMA/CPMP/BWP/2879/02) の第2改訂版。主な追記は以下の通り。 ・尿由来医薬品における尿提供者の除外基準は血漿由来製剤の供血者と同様の基準を適用すべきである。 ・尿由来医薬品の製造業者は、血漿由来医薬品の場合と同様に、製造工程における感染性除去能力の評価を段階的に行っていくことが求められる。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion. 51(2011)1556-1566	輸血による孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病感染に関する報告。CJDの確定または疑い例と診断された患者(孤発性CJD741例、遺伝性CJD175例)と非CJD神経障害患者(482例)において、輸血歴及び可能性のある交絡因子について調査を行った。一変量解析の結果、臨床的発症より10年以上前に輸血が行われた割合は、他の神経障害と比較して孤発性CJD患者において4.1倍高かった。10年間のラグタイムを考慮しなかった場合は、統計学的有意差が失われた。交絡因子について調整した多変量解析においても、輸血後に孤発性CJDの発症リスクが増加することが示された(OR, 5.05)。遺伝性CJD患者については、輸血に関連する有意なリスク因子は明らかにならなかった。これらのデータの有意性が生物学的に信頼できるかどうかや、研究デザインにおけるバイアスの結果であるかどうかは疑問が残るが、これまでの陰性結果の疫学的な報告は、孤発性CJDにおける血液の安全性について過大評価している可能性がある。
64	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2011;6:e19737	ヒツジの肝における異常プリオンタンパク(PrP ^{Sc})の検出に関する報告。肝臓へのPrP ^{Sc} の蓄積性を検討するために、9例のスクレイピー感染ヒツジ及び7例のBSE感染ヒツジを作成し、肝臓中のPrP ^{Sc} をELISA法及びWestern blot法を用いて検出した。その結果、スクレイピーヒツジの89%、BSEヒツジの100%において肝臓中にPrP ^{Sc} が検出された。
65	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20110607.1736	各国におけるプリオン病発生動向の状況報告。 [1]英国:2011年6月6日時点、6月のvCJD新規症例報告はなし。現在vCJD症例は総計175例(死亡171例、生存4例)。 [2]フランス:2011年5月26日時点、2011年のvCJD症例はなし。 [3]米国:2011年2月28以降更新されていない。 [4]EFSA Journalにて「動物及びヒトTSEの疫学的又は分子生物学的知見」が掲載された。 [5]スイス:2例目のBSEが報告された。肉骨粉禁止以前の1995年に誕生したベルン州の雌牛であった。
66	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20110419.1218	日本におけるスクレイピー発生の報告。福岡県にて2011/3/30、ヒツジ1匹にスクレイピーが発症し死亡したと国際獣疫事務所(OIE)に報告された。屍体は焼却された。スクレイピーの報告は2004年以来であったが、今回のアウトブレイクは以前の報告と同じ古典的スクレイピーであった。
67	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA TSEAC 23rd Meeting. Aug 1,2011	FDAの伝達性海綿状脳症諮問委員会(TSEAC)における議題要約書。FDAは、サウジアラビアにおけるBSEに感染したと考えられる3症例を受け、サウジアラビアでの滞在期間を血液製剤等のドナーの除外条件とすることについてTSEACに助言を求めている。議題:1)以下の者について血液製剤、組織・細胞由来製剤(HCT/P)のドナーとして不適とすることについて。A)1980~1996年に米軍としてサウジアラビアに6ヶ月以上滞在した者。B)1980~1996年にサウジアラビアに累積5年以上滞在した者。2)血液製剤、HCT/Pの供給及び安全性への上記事項の影響について。3)更なる安全性基準の必要性について。
68	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion medicine reviews. 25(2011)133-144	異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)感染阻止に対して、輸血製剤の白血球除去の有効性に関するレビュー。輸血時のvCJD感染阻止の観点から、欧州では全製剤に対し白血球除去処理が導入されている。しかし、齧歯類モデルからは残存血漿にも感染性があり、白血球除去処理により感染は阻止できないことが示唆されている。一方、ヒツジモデルでは白血球除去処理後の輸血による感染は認められておらず、ヒトでも処理後の赤血球輸血においてvCJD感染の報告はない。このように白血球除去による一定の効果は示唆されるため、現在行われている全例処理は今後も継続されるべきである。
69	黄色ブドウ球菌感染	J Clin Microbiol. 49(2011)1679-1680	MRSAの新たな感染経路に関する報告。米国南東部の病院のMRSA陽性患者において、ヒト-ハムスター間のMRSA伝播が示唆された。患者は両肺移植を行った進行性嚢胞性線維症の28歳白人男性で、慢性副鼻腔炎、糖尿病及び腎機能不全を合併し、副鼻腔含有物の術前培養によりMRSA感染が確認されていた。患者の住居におけるハムスター3例から鼻及び腸スワブを採取し調査したところ、1例においてMRSA陽性であり、PCR解析及びプロテインタイピングの結果、患者のMRSA株と遺伝的関連性が認められた。本報告は、ヒト-ハムスター間におけるMRSA伝播を示唆する初めての報告である。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
70	黄色ブドウ球菌感染	The Guardian. 2011 Jun. 3	MRSA新規株の感染性についての報告。2007年、イングランド南西部の乳牛において、新型のMRSA株が発見された。その後英国、アイルランド、デンマーク、及びドイツにおいてヒトからも検出され、現在も拡大しているとみられる。重篤例は少ないが、この新型株はヒトに対して血液感染症を引き起こし、イングランド及びスコットランドにおけるヒト感染は昨年12例認められた。新型株は一般的な株と遺伝子構成が異なるため、MRSA確定診断に使用する検査では検出できない可能性がある。
71	レンサ球菌感染	http://www.saigon-gpdaily.com.vn/Health/2011/5/92657/	ベトナムにおけるブタ連鎖球菌感染の報告。ベトナムのホーチミンの病院から新たなブタ連鎖球菌感染患者が1例報告され、2011年初頭からの患者数は11例となった。当該患者はブタの血の塊を摂取して感染したと考えられており、高熱と臓器障害により入院した。現在の患者の状態は回復傾向にある。
72	レンサ球菌感染	Korean J Lab Med. 31(2011)205-211	韓国におけるブタ連鎖球菌感染の報告。韓国において67歳のブタ屠殺業者の男性がStreptococcus suis髄膜炎と診断された。患者はめまい、難聴と頭痛を発症し、脳脊髄液及び血液培養からグラム陽性球菌が分離され、S. suisと同定された。抗生物質により4週間治療した後も症状は改善されなかった。患者は発症の1週間前に手に擦り傷を負ったが、保護具を付けずに作業をしていたことが判明した。
73	レンサ球菌感染	ProMED-mail 20110519.1517	ベトナムにおけるブタ連鎖球菌感染の報告。2011/5/16、ベトナムのホーチミン市においてブタ連鎖球菌の感染患者が新たに1例報告された。2011年初めからの患者数が11例となった。57歳の患者は豚の血の凝固物を食べて感染し、高熱と臓器障害のために入院となったと伝えられた。患者の状態は改善傾向にある。
74	炭疽	ProMED-mail 20110612.1794	インドにおける炭疽感染の報告。オリッサ州カンダマハルにおいて炭疽感染発生があり、小児を含む少なくとも12人が感染したことが報告された。そのうち2例は重篤例であり、入院中である。感染があったのは、人口120人の農村で、48人が住民出身者である。腐ったウシやブタの肉を食べて感染したと見られている。
75	結核	http://www.farmersguardian.com/home/livestock/Livestock-news/bovine-tb-found-in-pigs-highlights-susceptibility/40329.article	英国においてブタに感染したウシ結核の報告。ウェールズの3カ所の農場で飼育されているブタにウシ結核が確認され、ブタに対しても感染することが認識されている。感染ブタの他の動物に対する感染力はウシに比較して弱い。ブタの定期的な検査は行われておらず、処理場において感染が疑われたブタについて当局による検査が行われている。
76	結核	Indian J Tuberc. 58(2011)54-59	インドにおける薬剤耐性結核に関する報告。2007年4月から2009年12月、ニューデリーの結核専門病院において、リファンピントイソニアジドに対して耐性が認められた結核患者223例に対して広範囲薬剤耐性結核(XDR-TB)の有病率を調査した。その結果、分離株においてXDR-TB株は45例(21.17%)であり、80%近くのXDR-TB株は3種もしくは4種以上の薬剤に対して抵抗性を示した。多剤耐性結核に対しては速やかに第2選択薬の感受性検査を行うことが重要である。
77	結核	ProMED-mail 20110618.1866	パキスタンにおける結核の報告。2011年2月、パキスタン国内35地区の政府系医療施設から10831例の結核患者が報告された。とりわけパンジャブ州の18地区から、全体の86%を占める患者が報告された。この結核患者数は、1ヶ月前の4910人から倍増していた。
78	結核	ProMED-mail 20110717.2170	英国におけるウシ結核の報告。英国ウェールズの3カ所の農場において、ウシ結核に感染したブタが確認された。処理場において感染が疑われたすべてのブタについて、当局による検査が行なわれている。
79	結核	Scand J Infect Dis. 43(2011)280-285	中国における薬剤耐性結核に関する報告。2007年7月から2009年6月の間、上海の結核専門病院において1156例の結核患者を調査したところ、494例(42.7%)が多剤耐性結核(MDR-TB)、126例(10.9%)が広範囲薬剤耐性結核(XDR-TB)と分類された。XDR-TB患者ではMDR-TB患者よりも病巣の範囲が大きく、糖尿病等の合併症を持つ患者が多かった。また、イソニアジドとリファンピシンを除く全ての薬剤に対する耐性率はMDR-TB患者よりもXDR-TB患者において有意に高く、治療不成功例の頻度も高かった。XDR-TBにおける臨床治療成績は通常低く、近年世界的な問題として浮上している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
80	結核	The southland Times: Apr 15, 2011	ニュージーランドにおけるウシ結核の報告。2011年4月、タキチム山地南部の農場で結核に感染したウシが発見された。ウシ結核が発生したのはここ12か月で2例目である。ウシは屠殺され、検査の結果結核菌陽性であった。
81	ハンセン病	N Engl J Med. 364(2011)1626-1633	アルマジロによるハンセン病伝播に関する報告。ハンセン病の感染経路について調査するために、米国南部のハンセン病患者50人を対象にらい菌M. lepraeの感染源を遺伝子型解析で特定した。その結果、野生アルマジロ28/33匹およびアルマジロ媒介菌に曝露し得る場所に住む患者25/39人から、他の地域では見られない特異な遺伝子型(3I-2-v1)が検出された。このことから、同地域のハンセン病は人獣共通感染症の可能性があることが示唆された。
82	ハンセン病	日本ハンセン病学会雑誌. 80(2011)29-36	研究用チンパンジーに発症したハンセン病の報告。かつて医学感染試験に使用されたチンパンジーが飼育される国内の施設において、ハンセン病感染が1例発生した。本症例のチンパンジーはかつてB型肝炎、C型肝炎の研究に使用されており、推定20歳時に当該施設に入所、2009年1月(推定30歳時)に発症した。顔面の腫脹、変形が進行し獅子様顔貌が認められ、結節内及び皮膚組織よりらい菌が検出されてヒトに感染するものと同一のハンセン病確定診断された。WHO/MDT/PB治療によって、1年以内に回復した。感染チンパンジーは1980年に来日してから研究施設にいたこと等の生活歴とSNP解析の結果より、出生地である西アフリカにおいて感染し、30年近くの潜伏期を経て発症したものと考えられた。
83	大腸菌性胃腸炎	Eurosurveillance vo.16 Is.24	志賀毒素／ペロ毒素産生大腸菌(STEC/VTEC)感染のアウトブレイク発生時におけるドイツのサーベイランスに関する報告。2011年5月、ドイツのロベルト・コッホ研究所は、STEC/VTEC感染による溶血性尿毒症症候群(HUS)患者の急激な増加を受け、サーベイランスについて以下のような変更を行った。疫学情報交換の集約化／国レベルまでの情報伝達の迅速化／病院の救急部における出血性下痢症の症候群サーベイランスシステムの導入／ドイツにおけるHUS治療受け入れ能力の評価／検査機関でのアクティブサーベイランスの開始。これらの追加サーベイランスシステムは今回のアウトブレイクにおいて、より迅速なモニタリングを可能にし、患者の発生動向等について把握することができた。
84	大腸菌性胃腸炎	J Clin Microbiol. 49(2011)1594-1597	腸管出血性大腸菌O-157:H7の新規接合性プラスミドに関する報告。1999年に中国の徐州市において発生したO157:H7アウトブレイクの分離株について、接合性プラスミドをPCR法により解析した。その結果、本アウトブレイクの分離株には強毒性のプラスミドpO157に加えて、新規の38kb接合性プラスミドが含まれていた。新規接合性プラスミドはサルモネラenterica種Angona血清型に含まれるプラスミドと高い類似性を示しており、pO157_Salと同定した。pO157_Salは326の分離株のうち15株に認められ、12株では同一のパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)型であった。また、同地域のブタ、ウシ、ヤギ、鶏等の動物からも同一のパルスタイプの分離株が単離され、今回のアウトブレイクと単一の起源を持っていることが示唆された。
85	大腸菌性胃腸炎	西日本新聞. 2011年6月24日	欧州におけるO-104感染のアウトブレイクに関する報告。ドイツを中心に欧州で大量感染を引き起こした腸管出血性大腸菌O-104について、英国などの研究チームは問題の菌は毒性を持つ種と体内吸収性が高い種が交配し毒性が強まった新種であることを突き止めたと発表した。これまでにドイツにおいて約3700人が感染し、42人が死亡している。
86	大腸菌性胃腸炎	読売新聞電子版. 2011 Jun. 3	欧州における腸管出血性大腸菌O104に関するニュース。ドイツで発生したO104について、WHO報道官は新種である可能性を示唆するコメントをした。複数の専門家も同様に述べている。感染は少なくとも10カ国に及び、2011/6/2までに17人が死亡、感染者は1500人以上に達した。
87	セラチア	http://www.adph.org/news/assets/110407.pdf	米国における完全静脈栄養剤(TPN)によるSerratia marcescens(S.marcescens)感染の報告。アラバマ州公衆保健局(ADPH)は2つの病院から、TPNを投与した患者にS.marcescens感染が生じたという報告を受けた。同一業者からTPNを納入していた6つの病院が特定され、19症例が報告された。遺伝子解析の結果、TPNを製造する際に使用していた器具及びTPNから分離された菌と、TPNを受けた入院患者12人から分離されたS.marcescensが同じであったと確認した。さらにTPNの原料である混合アミノ酸1袋も、S.marcescensで汚染されていた。TPNを混合する時の殺菌工程の失敗が、汚染の原因になったと考えられる。この製造業者は通知を受け、汚染の可能性を情報提供し、生産を中止し、製品を回収した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
88	ペスト	Clin Infect Dis. 52(2011)185-190	中国における原発性肺ペストの報告。2009年7月、中国の青海省の人口1472名の村において肺ペストのアウトブレイクが発生した。第一感染者は34歳の男性で、7月25日に発熱と咳を発症し、治療を受けたが翌日死亡した。続いて11例が第一感染者より感染したと考えられた。全症例で発熱、頭痛と咳が発症しており、うち第一感染者を含めて3例が死亡した。第一感染者の飼い犬2頭が同様の症状で発症数日前に死亡しており、患者5例とイヌ2頭の肺、咽頭又は痰よりY. pestisが分離されたことから、このアウトブレイクが死亡したイヌを起源として発生したことが示唆された。
89	ブルセラ症	ProMED-mail 20110505.1386	ロシアにおけるブルセラ症の報告。ロシア連邦バシコルトスタン共和国の農業従事者における感染者が、前回報告された7例から12例に増加した。感染の原因は、証明書や獣医学的対策を実施されることなくカルムイク共和国から輸入されたウシであると当局は発表した。当農場のウシは当初熱処理後に食用となると見られていたが、精肉会社側はこれを拒否していた。
90	ボツリヌス中毒	Health Protection Agency, Emerging Infections Monthly Summaries, 8	アイルランドにおける乳児E型ボツリヌス症の報告。アイルランドにおいて、E型毒素による乳児ボツリヌス症の症例が1例報告された。乳児症例としては2010年5月にイングランドにおいて確認されて以来2例目の報告である。感染源はペットとして飼育されていたカメと関連しており、イングランドの以前の症例についても同様の関連性が疑われている。
91	細菌感染	21st Regional Congress of the International society of Blood Transfusion; P-384 June18-22,2011	赤血球輸血によるヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)感染に関する報告。36歳女性が帝王切開術を受け、6単位の赤血球と2単位の新鮮凍結血漿が輸血された。9日後に発熱を生じ、後に急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に転帰した。PCRによってアナプラズマ・ファゴサイトフィルムが検出され、HGAであることが確認された。感染原因として可能性のあるものは輸血のみであった。輸血された8単位についてPCR及び間接蛍光抗体法により検査を行った結果、1検体が陽性を示した。白血球除去赤血球の輸血により感染が発生したため、白血球除去の効果は小さい可能性が示された。この感染症例は、ダニ咬傷歴のある供血者の一時的な供血停止を支持している。
92	細菌感染	CDC/MMWR. 60(2011)1083-1086	米国におけるレジオネラ症発生状況に関する報告。2000～2009年に国立届出疾病監視システム(NNDSS)に報告されたレジオネラ症(レジオネラ病及びポンティアック熱)症例を評価したところ、米国のレジオネラ症年間報告数は2000年の1,100例から2009年の3,522例へと増加し、粗国内発生率も2000年0.39/10万人から2009年1.15/10万人と増加傾向が確認された。
93	細菌感染	Joint Bone Spine 78(2011)303-305	2例目となるヒトへのStreptococcus equi subsp. Ruminantium感染の報告。患者は70歳男性で、急性脊椎椎間板炎、僧帽弁前尖と関連した心内膜炎を発症し搬送された。血液検査によりS. equi subsp. Ruminantiumが検出され、感染が確認された。アモキシシリン、リファンピン、ゲンタマイシン治療により解熱したが、患者はステージIIの骨髄腫による免疫不全と診断され、免疫グロブリン治療が開始された。患者は症状発現数日前に上気道感染症状を呈したウマ2頭と接触していたが、この2頭のS. equi感染が確認された。本症例はこれまで報告がなかった皮膚病変を介した経路で感染したものと推測された。
94	細菌感染	N Engl J Med. 365(2011)422-429	米国における新規エーリキア症に関する報告。米国におけるエーリキア症の原因菌について調査するために、患者の血液検体について分子学的方法、培養及び血清学的検査を行った。その結果、ミネソタ州とウィスコンシン州の4症例について、既に知られているE. chaffeensis、E. ewingiiではない新規のエーリキア種により引き起こされたことが明らかとなった。全ての患者は発熱、倦怠感、頭痛及びリンパ球減少症がみられ、3例は血小板減少症、2例は肝酵素濃度上昇を有していた。全例がドキシサイクリン治療により回復した。また、ミネソタ州とウィスコンシン州で採取された697例のクロアシマダニの少なくとも17例は、同一のエーリキア種がPCR検査陽性であった。遺伝子解析により、この新規エーリキア種がE. murisと近縁種であることが示された。
95	細菌感染	ProMED-mail 20110622.1906	香港における猩紅熱の報告。香港において小児2例(5歳男児及び7歳女児)が猩紅熱により死亡した。都市全体で数十例の感染者が発生しており、研究者らは新型の猩紅熱への注意を呼びかけている。香港大学の研究者らは、猩紅熱の原因菌 the Streptococcus pyogenesが変異し、感染力と致死性が高まっていることを発見した。従来から使用されている抗生物質の一部への耐性が確認されている。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
96	細菌感染	ProMED-mail 20110717.2162	インドにおけるジフテリア症の報告。インドのSawai Madhopurにおいて、ジフテリア感染により生後6か月の乳児が死亡した。他にも過去2週間で4例が感染し市内の病院に入院したことが確認された。このことから州内の予防接種計画の有効性に疑問が投げかけられている。2011年最初の2か月の予防接種率は目標のわずか10%であり、前年よりも5%低いペースであった。2010年全体では目標の83.18%ほどしか達成できていない。
97	細菌感染	第85回日本感染症学会総会・学術講演会. (21-22 April 2011), p257	国内における回帰熱の輸入症例の報告。患者は20歳女性で、ウズベキスタン渡航後に周期性の発熱、下肢痛を主訴に病院を受診した。輸入感染症疑いで検査を実施しても熱源は特定できなかったが、MINO治療にて治癒した。その後PCR検査によりBorrelia persica陽性となり、回帰熱と診断された。輸入例を含め国内初の症例であった。
98	細菌感染	第85回日本感染症学会総会・学術講演会. (21-22 April 2011), p282	国内におけるHelicobacter rappini感染の症例報告。患者は39歳女性で、頭痛、悪寒戦慄、腹痛、発熱を認め入院、CMZ治療により第8病日目に退院した。入院時、患者の免疫機能は正常であった。血液検体に対するPCR検査により原因菌はH. rappiniと同定され、臨床症状等から菌の侵入門戸は腸管と考えられた。H. rappiniによる感染症として国内初の症例であった。
99	細菌感染	第86回日本結核病学会総会. (1-3 June 2011)	長期の抗菌薬使用によるMycobacterium colombiense皮膚感染症の報告。患者は79歳男性で、骨髄異形成症候群に罹患しており、合併した難治性膿痂疹に対して2年間抗菌薬(CAM, MINO, LVFX)、抗真菌薬(ITCZ)を内服していた。2009年6月に右前腕の腫脹と紅斑が発現し、7月、生検と皮膚培養によりM. colombiense感染と確認された。本症例は国内第1例目の報告であった。
100	アメリカ・トリパノソーマ症	Current opinion in infectious diseases. 21(2008)476-482	米国における血液供給とシャーガス病に関する総説。米国では輸血を介したシャーガス病の感染を防ぐため、2007年1月よりTrypanosoma cruziに対する供血スクリーニングが行われている。その結果、2008年6月中旬までに500例以上のT. cruzi感染血液が検出された。また、近年、急性又は先天性シャーガス病には効果があるが慢性疾患には反応しないと言われていた抗トリパノソーマ薬が、プラセボ対照試験等によって慢性シャーガス病にも有効性が示された。今後もシャーガス病に対する有効な治療法や効果的な感染症マネジメント法の発展が求められる。
101	トリパノソーマ症	第59回日本輸血・細胞治療学会総会; 2011.4.14-16; O-120	在日ブラジル人献血者におけるTrypanosoma cruzi (T. cruzi) 抗体検査に関する報告。シャーガス病は中南米で流行し、感染者はT.cruziを長期間体内に保有する無症候性のキャリアとなることが知られている。在日ブラジル人の献血希望者20例についてT.cruzi抗体検査を行ったところ、ELISA法は20例全員陰性であったが、迅速法は19例陰性、1例判定保留であった。追加検査の結果、判定保留の1例は偽陽性であると判断した。年齢は20代9例、30代11例であった。出身地はサンパウロ州17例、パラナ州2例、ミナスジェiras州1例であった。全員家族にシャーガス病の者はおらず、また過去にT.cruzi抗体検査をした者は1名のみであった。
102	バベシア症	CDC Media Relations. Sep 6, 2011	米国におけるバベシア症の輸血感染リスクに関する報告。自覚のないバベシア症感染供血者スクリーニングに対してFDA認可のバベシア検査は利用できない。米国のほとんどのダニ媒介バベシア症は7州において(コネチカット州、マサチューセッツ州、ミネソタ州、ニュージャージー州、ニューヨーク州、ロードアイランド州、ウイコンシン州)特に暖かい時期に発生している。しかし輸血関連バベシア症は19州において認識され、年間を通して発生している。バベシア症はマラリアと誤診されることがあり、診断が考慮されない限り重症例でも見逃されやすいと指摘される。2011年1月、バベシア症は全国的な届出疾患となり、州保健省はバベシア症例に関して米国疾病管理予防センター(CDC)と情報共有することを奨励した。バベシア症に関する正確な情報を得ることは、血液供給をより安全にするために有益である。
103	バベシア症	Emerging Infectious Diseases. 17(2011)843-847	米国におけるバベシア症増加に関する報告。ニューヨーク州ハドソン渓谷において、2001年以来バベシア症が増加している。2001年から2008年にかけて、ニューヨーク州の他の地域が1.6倍の患者数増加であるのに対し、ハドソン渓谷住民では6例から119例と20倍に増加した。2002年から2009年の間、計19人が地域3次医療センターへ入院し、1人が死亡している。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
104	感染	http://www.fda.gov/biologicsbloodvaccines/safetyavailability/reportaproblem/transfusiondonationfatalities/ucm254802.htm	米国における輸血後の死亡者数に関する報告。FDAの生物製剤評価研究センターは、2010年度に輸血後死亡者76例の報告を受けた。このうち71例はレシピエントであり、40例は輸血と関連あり、24例は関連が否定できない、7例は関連なしと評価された。微生物感染による死亡例が2例報告されたが、1例は赤血球輸血によるバベシア症、もう1例はプールした血小板輸血による大腸菌感染であった。また、全76例のうち5例はドナーの死亡例であったが、供血と死亡について関連が疑われる症例はなかった。
105	感染	IASR. 32(2011)218-219	日本におけるライム病の発生状況に関する報告。1987年に長野で1例目が報告されて以来、日本におけるライム病は主に北海道、本州中部以北で200例以上の確定例の存在が推定される。1995～2000年に北海道で集積したマダニ刺咬症700例のうち確定例が56例(8.0%)であることから、ボレリア汚染地域においてライム病の発症頻度はマダニ刺咬症の10%未満と推定される。また1989～2004年までに113例の確定例を集積した結果、北海道のライム病は皮膚症状が主体で、第II期以後の出現頻度も9例(8.0%)と欧米に比べ低い。また発熱、全身倦怠感などの全身症状の出現頻度も低く、抗菌薬に対する反応も良好で、一般に軽症例が多い。その原因は、ボレリアそのものの病原性の違いや、人種的遺伝的違い、医療状況、マダニの違いなど、複数の要因が関与していると推定される。
106	感染	IASR. 32(4)107-108	国内におけるアジア条虫症の報告。都立墨東病院において、2010年6～9月に4例の患者がアジア条虫症と診断されたことが報告された。4例中3例に牛又は豚の生レバーの食歴があり、アジア条虫が分布している地域へ渡航歴のある患者はなかった。全例ともブラジカンテル及び下剤の投与で回復した。4例共に日本国内で感染した事例と考えられ、関東地方を中心にアジア条虫の幼虫(アジア囊虫)が感染した食材が流通していることが明らかである。
107	感染	IASR. 32(4)108	国内におけるアジア条虫症の報告。獨協医科大学越谷病院において、31歳の男性患者がアジア条虫症と診断されたことが報告された。患者は2010年8月に便中にきしめん様の虫を発見し、寄生虫疾患を疑われて紹介受診していた。患者の実家は焼肉店であり、頻りに摂食していた豚レバーが感染源と考えられた。患者はブラジカンテル及び下剤の投与で回復した。
108	感染	IASR. 32(4)109-111	国内におけるアジア条虫症の報告。2010年6月～2011年2月、群馬県と栃木県の県境地域において6例のアジア条虫による感染症例が報告された。6例は共に最近1年以内の海外渡航歴はなく、また6例中5例は生の豚レバーの食歴があったことから、豚の肝臓内にアジア条虫の囊虫が寄生していた可能性が高いと考えられた。今回、比較的狭い地域で症例が頻発したことから、感染源の調査が行われたが、追跡は不可能であった。
109	感染	Parasitology International. 60(2011)1-4	中国の乳牛におけるCryptosporidium保有率に関する報告。Cryptosporidiumの保有状況を検討するために、中国国内の10省22農場における1315例の乳牛について、Cryptosporidium oocyteの有無を調査した。その結果、全体の保有率は7.9%であり、3-11カ月の乳牛群で最も高く(11.3%)、2歳以上の群で最も低かった(1.0%)。陽性検体についてPCR-RFLP分析を行ったところ、C. andersoniが最も多く全年齢群にて確認されたのに対し、C. bovisは3-11カ月群にのみ保有が認められた。
110	感染	第59回日本輸血・細胞治療学会総会; 2011.4.14-16; SY-01-1	日本赤十字社におけるNAT導入の総合評価と今後の課題に関する報告。現在日本赤十字社の核酸増幅検査(NAT)感度は、HBV、HCV、HIVについてそれぞれ3.2IU/mL、12.4IU/mL、41.8IU/mLと極めて高感度である。この10年間で輸血HCV感染が3例、HIV感染が1例と、HCVとHIVについてはほぼ満足できる評価が得られているが、HBV感染は年間5.8例存在する。そのうちオカルト感染者からの血液による感染が半数、保管検体でも個別NAT陰性で、献血者フォローよりようやく確認できる例が20%以上を占める。これに対して取り得る対策が以下の様に考えられた。 1) ウィンドウ期の血液に対しては、NATの感度を上昇させる。 2) オカルト感染者に対しては、キャリアからの献血を永久的に断るのが根本的な解決策であるが、これは血液製剤の供給に影響する恐れがある。 3) オカルト感染者についてID-NATを適用する。この効果は検証する必要があるが、血液センター内のロジスティクスは複雑となると予想される。

ID	感染症(PT)	出典	概要
111	感染	第59回日本輸血・細胞治療学会総会; 2011.4.14-16; SY-01-2	日本赤十字社からの輸血副作用・感染症症例の現状に関する報告。2004年～2009年に報告された輸血副作用・感染症報告は10,842件で、その内訳は非溶血性副作用9,490件、感染症(疑い)1,149件、溶血性副作用167件、GVHD疑い32件、文献等症例情報4件であった。年毎の報告数の推移は、感染症(疑い)の減少により漸減傾向である。感染症(疑い)のうち輸血製剤との因果関係が高いと評価した症例は、HBV61例、HCV3例、HEV7例、ヒトパルボウイルスB19 7例、細菌7例であった。細菌感染7例の内訳は、血小板製剤のStaphylococcus aureus(SA)2例、G群レンサ球菌、B群レンサ球菌、Serratia marcescens各1例と、赤血球製剤のYersinia enterocolitica(YE)が2例であった。SA症例及びYE2症例は2006年の事例であった。初流血除去及び保存前白血球除去の導入により安全性は高まったと言えるが、なお、血小板製剤において細菌感染事例が散見される。
112	感染	第80回日本寄生虫学会大会, 第22回日本臨床寄生虫学会大会. (2011.3.29-30); 2C-15	台湾におけるトキソプラズマの血清陽性率に関する報告。台湾人のトキソプラズマ血清陽性率を明らかにするために、台湾の3か所の血液センターから得た健康な献血ドナーの血液サンプル900例について調査した。その結果、IgG陽性率は花蓮、台北、新竹においてそれぞれ14.12%、8.87%、8.4%であった。IgM陽性及びreal-time PCR陽性は0例であり、トキソプラズマの血液への混入は否定された。また、IgG陽性率は、湧水の飲水、猫飼育、貝類の生食、豚肉の生食と有意な関連がみられた。
113	原虫症	ProMED-mail 20110323.0914 Transfusion. 51(2011)1919-1923	コロンビアにおける輸血を介したリーシュマニア症感染の報告。コロンビア北西部において腎不全末期の42歳の男性に、腎移植と輸血が行われた後、致死性の内臓リーシュマニア症が発生した。コロンビアでは1例目のメキシコリーシュマニアによる内臓リーシュマニア症であった(通常は向皮膚性dermotropicとされている種)。輸血による感染が疑われている。
114	その他	ProMED-mail 20110427.1306	ホンジュラスにおける原因不明のウシの死亡に関する報告。ホンジュラスのEl Porvenir村において、数十頭のウシの原因不明の死亡が発生した。住民により、突然死であること、大量の降雨の後から発生したこと等の証言がなされた。一部の住民は、ウシが死亡する前に争いあった後、震えがきていたことから、狂犬病ではないかと考えている。